

☆ 文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

川ぞいのY病院の受けつけで、診察券を出して待合室に入ると、

大きなボストンバッグを下げた。哲に声をかけられた。正直にいうことは、はずかしかった。

待合室の人々の視線が、みんなぼくたちを集まったような気がした。

「風邪か」  
哲の言葉に、だまっとうなずいた。

「唐沢君は」  
そういつてから、ぼくはいいなおした。

「哲は」  
「入院しているばあちゃんのを洗たく物を取りにきたんだ。なかなか、足がよくならなくてさ」といつて、肩をすくめた。

②「ジュースでも飲まないか」

ぼくは、その場から早く離れたかった。

「悪いな。おれ、オレンジ」  
哲も、すなおにあとをついてきた。

「病院の中、暖房強いから、のどかわいて」  
ジュースをいっきに飲みほした哲は、セーターのそでで口をぬぐった。

「それ、哲が、洗うの？」

問一 「ぼく」は病院へ何をしにきましたか。次の文の□□にあてはまることを文中から書きぬきなさい。

□□をひいて、診察を受けにきた。

問二 哲は病院へ何をしにきましたか。それがわかる一文を文中から書きぬきなさい。

問三 線①「大きなボストンバッグ」には何が入っていると考えられますか。次の文の□□にあてはまることを文中から書きぬきなさい。

入院中のばあちゃんの□□。

問四 線②「ジュースでも飲まないか」と言ったとき、「ぼく」はどんな気持ちでしたか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 哲と話しているところをみんなに見られるのが、はずかしくてたまらない気持ち。
- イ だれにもじやまされずに哲とじっくり話をする機会ができたのを、喜ぶ気持ち。
- ウ 家のことであるいろいろたいへんな哲を、はげましてあげたい気持ち。
- エ 予想外の場所で友だちに会えたのがうれしく、落ち着かない気持ち。

「うん。おれしかないじゃん。といつても、洗たく機がやるんだけどさ」

ぼくは、今まで一度も洗たく機のボタンを押したことがない。

「おれんちのかあちゃん、心の病気で入院してんだ。とうちゃんは、おれが三年生の時、屋根から落ちて死んでさ、大工だったからね。かあちゃん、下の妹産んだばかりで、それで入院したんだ」

「仲、よかったんだね」  
「えっ？」

哲は、ぼくのいつたことの意味がわからなかったらしく、ききかえしてきた。

「哲のおとうさんとおかあさんさ」

「ああ、うん。そりゃあ、仲よかった。とうちゃんが仕事休みの日は、よくドライブに出かけたし、家にいると、みんなよくわらったなあ。とうちゃんとかあちゃん、十八歳で結婚したんだ。式なんてしてないし、新婚旅行なんてしてないけど、おれたちは世界一仲がいいって、とうちゃんいつた」

「だからさ、おれ」

「男だし、ばあちゃんや妹たち、しあわせにしくちやならないんだ。とうちゃんのかわりに」

④「ぼくは、もうジュースが飲めなかった」  
（上條さなえ『友だちじゃないか』）

\*1 哲II「ぼく」の同級生。おさない妹二人のめんどうをみるため、学校を休みがちである。

問五

線③「おれしかないじゃん」とありますが、洗たくをする人が哲しかないのはなぜですか。哲の家族の状況よをまとめた次の表の空らんにあてはまることをそれぞれ書きなさい。

とうちゃん	
かあちゃん	
ばあちゃん	
妹たち	まだおさなく、哲がめんどうをみている。

問六 問五の哲とは対照的な「ぼく」の立場がわかる一文を文中からさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

□□

問七

線④「ぼくは、もうジュースが飲めなかった」とありますが、これは「ぼく」のどんな様子を表していますか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもなのに重い責任を負っている哲が気の毒で、なみだを必死にこらえている様子。
- イ 哲の置かれている状況ようが予想より良かったので、拍子抜けしている様子。
- ウ 哲のあわれな身の上話を聞いて、どうなくさめたらよいか考えをめぐらせている様子。
- エ 家族に対して何の責任も負っていない自分を哲と比べ、気が引けている様子。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ぼくと哲はしだいに仲良くなっていったが、哲はおじさんの家に引こすことになった。

①「お別れ会の実行委員を、決めなくちゃ」

宮本さんが、立ち上がった。

「そうだな、実行委員をやってくれる人、手をあげて」

先生の言葉に、ぼくは気がつくど手をあげていた。

「村松、おまえ、やってくれるのか」

ぼくが、うなずくと、哲が、

「村松はいいよ、先生」

と、大きな声でいった。

ぼくは、哲を見た。

「村松は、入試があるじゃんかあ、先生。大事な時だぜ。だめだなあ、先生、教育的配慮がたりないよ」

「あっ、そうか」

先生が、頭をかいた。

「いえ、先生、ぼく、やります」

ぼくは、自分の意見を通した。

給食の時間、哲のまわりを女の子が、とりかこんだ。

それを見て、先生が、

「すげえ、哲、アイドルみたい」

と、ひやかすと、

「おれ、アイドルだもん、先生。知らなかったの、どっから見てもジヤニーズ系じゃん」

哲が、サラサラのかみの毛を片手でかき上げるしぐさをした。

問一 線①「お別れ会」とありますが、だれのお別れ会ですか。

問二 「ぼく」がお別れ会の実行委員をするかどうかについての(1)先生、(2)哲、(3)「ぼく」の考えとしてもっともよいものを次のア〜オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 友だちなのだから、せひともやるべきだ。

イ 入試の前で大変だろうが、やってくれたらうれしい。

ウ 気持ちはうれしいが、大事な時だからやらないほうがよい。

エ やりたい人はたくさんいるので、無理にやらなくてよい。

オ 仲がよかったわけでもないのに、出しゃばらないでほしい。

(1) (2) (3)

問三 線②「いつものクラスのふんいきになった」とありますが、

(1)「いつものクラスのふんいき」、(2)「いつものクラスのふんいき」

になる前のふんいきとしてもっともよいものを次のア〜エからそ

れぞれ選び、記号で答えなさい。

ア きびしく責め合うふんいき。

イ 明るく笑い合うふんいき。

ウ 期待にうかれるふんいき。

エ 別れを悲しむふんいき。

(1) (2)

問四 線③「授業のあと、先生が職員室にぼくを呼んだ」とあり

ますが、何のためですか。次の□□にあてはまることばをそれぞ

れ文中から書きぬきなさい。

「ジヤニーズ系って、なんだ？」

先生が、げげんそうな顔をして、みんなにきいた。

「先生、おくれてるう。今、一番人気あるアイドルグループの事務所の

名前で、そこからデビューしたアイドルを、ジヤニーズ系っていうんだよ」

青木が、説明すると、先生は腰をちよっとひくくするふりをして、

「失礼しました」

といったので、クラスにわらいが起きた。

「それぐらい知ってないと、子どもの心はつかめませーん」

哲が、いうと先生は、

「反省してます」

と、頭をかいた。

② いつものクラスのふんいきになった。

一瞬、ぼくは哲の転校を、忘れそうになった。

③ 授業のあと、先生が職員室にぼくを呼んだ。

先生の机の上に小さなカレンダーが置いてあって、二月の二十日、

二十二日、二十五日に赤丸がしてあった。

「もうすぐだな、入試」

先生が、カレンダーを見ていった。

ぼくは、先生のやさしさに胸がいっぱいになった。

「だいじょうぶか、実行委員。先生はうれしかったけどさ。家で心配

するんじゃないか」

「だいじょうぶです」

「そうか。哲、よろこんでたよ」

「だって……」

④ ぼくは、もう一度カレンダーを見た。

「だって、哲は、ぼくの友だちなんです」

先生が、だまって、うなずいた。(上條さなえ「友だちじゃないか」)

をひかえた「ぼく」が

になったことを、

線④「ぼくは、もう一度カレンダーを見た」とありますが、

何を見たと考えられますか。もっともよいものを次のア〜エから

選び、記号で答えなさい。

ア 「ぼく」の入試までの日数。

イ お別れ会までの予定。

ウ 先生の今後の予定。

エ 哲がいなくなってしまう日。

問六 この文章から、(1)先生、(2)哲、(3)「ぼく」のどんな性格が読み

取れますか。その説明としてもっともよいものを次のア〜エから

それぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ふざけてばかりに見えるが、人を気づかうやさしさがある。

イ だれに対してもやさしく、クラスの人気者である。

ウ しっかり者で、先生にもクラスのみんなにもたよられている。

エ 子どもの関心事にはうといが、温かい心をもっている。

オ まじめで、思いこんだらがんこにゆずらないところがある。

(1) (2) (3)



P 29

- (6) 情報 (1) 講堂 (2) 無罪 (3) 志望 (4) 漁師 (5) 犯人

「文章たんけん」

P 30

1 問一 風邪

- 問二 入院しているばあちゃんの洗たく物を取りにきたんだ。  
 問三 洗たく物 問四 ア  
 問五 〈とうちゃん〉 屋根から落ちて死んだ。  
 〈かあちゃん〉 心の病気で入院している。  
 〈ばあちゃん〉 (足を悪くして) 入院している。  
 問六 ぼくは、( ) がない。 問七 エ

解説

- 問一 「風邪か」と哲に聞かれてうなずいている。  
 問二 問一とは逆に、「ぼく」がたずねて哲が答えているところがある。  
 問三 哲は大きなポストンバッグに何を入れていたか。  
 問四 3〜5行目の「正直にいうと……はずかしかった」や、そのあとの「待合室の人々の視線が、みんなぼくたちを集まったような気がした」、——線②の直後の「ぼくは、その場から早く離れたかった」などからわかる。みすばらしいかっこうの哲と話しているのをみんなに見られるのはずかしく、はやくみんなから見られないところに行きたかったのである。  
 問五 ばあちゃんの様子よりは、前半の会話からわかる。とうちゃんとかあちゃんについては、27〜29行目の哲のことばかりとらえる。  
 問六 「ぼく」は、家族をひとり支えているような哲とはまったく違う生活をしている。

P 33

- (6) 精神 (1) 出演 (2) 解答 (3) 金額 (4) 文化財 (5) 制服

P 34

「文章たんけん」

- 1 問一 哲 問二 (1) イ (2) ウ (3) ア  
 問三 (1) イ (2) エ  
 問四 入試・実行委員・家で心配するんじゃないか 問五 エ  
 問六 (1) エ (2) ア (3) オ

解説

- 問一 最後から二行目の「だって、哲は、ぼくの友だちなんです」が、「ぼく」がお別れ会の実行委員を引き受けた理由であることから考える。  
 問二 先生の考えは42〜43行目、哲の考えは10〜11行目、「ぼく」の考えは48行目からわかる。  
 問三 先生や哲がおもしろいことを言い合って「いつものふんいき」になったこと、その前はお別れ会の実行委員を決めていたことを考える。  
 問四 先生は「ぼく」が実行委員になったことを喜んではいないが、やはり哲に言われたことが気になるのである。  
 問五 このときの「ぼく」にとって、一番気になっていることは何か。  
 問六 三人のことばや行動から、それぞれの性格をしっかりと読み取る。

P 32

- 発音 (目)遊ぶ (口)しぼる (手)はしる  
 (足)とぶ (鼻)あずける

解説

- 目II目にとまる。目にうかぶ。目が回る。目がきく。  
 ○ 口II口をわる。口をはさむ。口がすべる。口を切る。  
 ○ 手II手がかる。手を焼く。手を打つ。手にあまる。  
 ○ 足II足をひっぱる。足をのぼす。足をあらう。足が出る。  
 ○ 鼻II鼻につく。鼻にかける。鼻で笑う。鼻を明かす。

問七 問六を参考に考える。哲が気の毒というような同情的な目では見えない。

P 36

「ことば・コトバ・言葉」

- 1 (1) うつくしすぎる (2) うけとる (3) よこだおし  
 (4) むなぎわぎ  
 2 (1) 泣く・虫 (2) 売る・急ぐ (3) 命・かける  
 (4) 細い・長い (5) 底・ない・ぬま

解説

見物人・人力車・物理学・大都会・合理化・化学者・料理人・文化人・同好会・同級生・好都合・共同体・感想文・新入生・生徒会・無法者

- P 37
- (6) 団体 (1) 寄付 (2) 正義 (3) 限度 (4) 雑草 (5) 手術

〔文章たんけん〕 P 38

- 1 問一 哲にパンをあげることができているのは、今日が最後だから。  
 問二 ぼくは、なんとも深呼吸をした。  
 問三 (1) 対等 (2) 同情 問四 ウ  
 問五 哲を友だ(と)でいた。 問六 もらった 問七 イ

【解説】  
 問一 哲が「みなさん、最後のカンパです」と言っていることから考  
 える。

問二 「なんとも」ということばから、「ぼく」がかなりきんちようし  
 ていることがわかる。

問三 (1)は哲のことば、(2)は宮本さんのことばの中にある。

問四 同情されるような状況みまもようがうれしいはずがない。

問五 哲にパンをあげるといことは、哲より上に立つということであ  
 る。自分の中にそんな気持ちがあったことに気づいたのである。

問六 問三参照。哲は宮本さんや青木君あおきに対して、「ぼく」に対すると  
 きとはちがう態度をとっている。

問七 「類い、電話よ、女の子から」というママの声に「トゲ」があるこ  
 とや、「友だちは、これからいっばい、できるわ」ということばか  
 ら、ママが「ぼく」の友だちとのつきあいを好ましく思っていな  
 いことがわかる。

タイムテスト (1)

- P 41
- 1 (1) ぼうふう (2) と (3) みちび (4) ていあん  
 (5) ひき (6) いきお (7) じょうたい (8) こうえん
- 2 (1) 物質 (2) 制限 (3) 確 (4) 条件 (5) 寄  
 復習 (7) 現 (8) 増
- 3 (1) ウ・計 (2) エ・晴 (3) ア・鳥 (4) イ・下  
 れんが (別解) れっか・エ (2) おおぎと・ウ  
 リっしんべん・ア
- 4 (1) しんによう (別解) しんにゆう)・イ  
 (4) やまいだれ・カ (6) ごんべん・オ  
 (5) 百 (2) 千 (3) 三 (4) 七
- 5 【解説】  
 (1) おさないころの性質は大人になっても変わらない。  
 (2) 悪いことはすぐに知れわたる。  
 (3) 三人も集まればよい知恵ちえがうかぶ。  
 (4) どんな人でも少しはくせがある。
- 6 (1) イ (2) ウ (3) ア  
 (1) イ (2) エ (3) ア (4) ウ  
 (1) あるきまわる (2) あおぞら (3) おりがみ  
 (1) ウ (2) イ (3) ア

〔ことば・コトバ・言葉〕 P 40

- 1 ウ
- 【解説】  
 アは、「調べる」という意味。イは、「世話をする」という意味。  
 (1) ① ウ ② イ ③ ア  
 (2) ① ウ ② エ ③ イ ④ ア

【解説】  
 右上…「動物のどう体の下部から左右に分かれてのびている部分」の意  
 味。  
 左上…「台を支える部分」の意味。  
 右下…「足が出る」という慣用句かんようくで、「出費が予算をこえて、損そんをする」  
 という意味。「足を出す」ともいう。  
 左下…「交通機関」の意味。